

みやぎ森林・林業未来創造カレッジ

令和7年度研修計画概要

みやぎ森林・林業未来創造機構

●研修方針

- (1) 産業界・地域団体・研究・行政が連携・協力し、林業を志望する若者や、知識・技術の習得、技能向上を目指す就業者の方々などの多様なニーズに応えられる研修を進めます。
 - 宮城県、宮城県林業労働力確保支援センター、林業・木材製造業労働災害防止協会宮城県支部が連携し森林・林業の学び初めから就業後のキャリアアップまで体系的に研修できる場を提供します。
 - みやぎ森林・林業未来創造機構（以下「機構」）の会員事業体や学識経験者、実務経験者の協力の下に研修内容の充実を図ります。
- (2) 研修生と講師、研修生同士がやり取りを行いながら課題を研究するワークショップ型研修の取入れなど、研修生が主体性を持って参加し、学び・交流・実践を継続できる研修スタイルを重視します。
- (3) 機構の「事業構想」に基づき、社会や森林・林業の課題に向き合い、持続可能な循環型産業・地域活力を生み出す森林活用型産業へと森林・林業分野の成長をけん引する担い手の輩出を目指します。



●研修コース紹介～目的や経験に応じて必要な研修を選択してください

カレッジの研修は、内容や経験に応じた以下の4コースから成ります。テクノワーカーコースと森林管理・事業経営コースはキャリアに応じてクラス分けしています。自分のレベルや仕事に合わせて段階的に受講できます。また、必要な研修のみを選択し、受講することが可能です。

〔対象者〕

〔コース（クラス）〕

✓ 林業で働くことに興味のある方や 林業の就業に向け基本を学びたい方	▶ A 林業トライコース	P2
✓ 就業後の技能向上やキャリアアップ を目指したい方	▶ B テクノワーカー（林業技能者）コース	P2～3
	技能者養成クラス → リーダー養成クラス → 指導者クラス	
✓ 森林の経営管理や事業体の運営を学 びたい方	▶ C 森林管理・事業経営コース	P4～6
	入門クラス → 事業管理者クラス → 経営者クラス	
✓ 広葉樹の活用や育林などで事業の拡 大や起業を目指したい方	▶ D 森林ビジネスコース	P6

◎このほか、カレッジや機構の取組を広げ、多くの方々が参加・交流する場として「オープンカレッジ」を開催します。(P6)

※実施予定日については講師や現地研修先の都合等により変更になる場合があります（実施日程は各実施機関から通知します）。
★は令和7年度新設研修

A 林業トライコース ～就業の検討から林業事業体への就業までを支援

No	研修名等	実施機関・問合せ先	実施予定	定員	概要
1	山仕事ガイダンス	林業労働力確保支援センター*（県委託）、県**	9月～2月 （2回）	各回 20名 程度	林業に関心のある方を対象に森林・林業の概要や林業に就業するための支援プログラム、林業事業体を紹介する。
2	★ FOREST JOBハイスクール	林業労働力確保支援センター*（県委託）、県**	5月～6月 （2日間）	20名 程度	高校を訪問し森林・林業の概要や林業に就業するための支援プログラム、林業事業体を紹介する。
3	新規林業就業者育成支援研修	林業労働力確保支援センター（県委託）	6月～11月 （9日間）	10名 程度	林業への就業を考えている方を対象に林業の基礎知識、刈払機安全教育、チェーンソー特別教育、実習、現場見学等の研修を実施する。（土日開催）
4	林業就業支援講習	林業労働力確保支援センター （全森連***委託）	11月 （12日間）	10名 程度	林業への就業を予定している方を対象に林業の基礎知識、刈払機安全教育、チェーンソー特別教育、小型車両系建設機械運転特別教育等の研修を実施する。（平日集中開催）
5	インターンシップ	林業労働力確保支援センター（県委託）	5月～12月 （2日間程度）	若干名	就業を希望する方に対して林業事業体とのインターンシップ（現場体験等）をマッチングする。
6	林業企業合同会社説明会	林業労働力確保支援センター（県委託）	11月 （1日間）	各20名 程度	林業への就業を希望する方を対象にした県内林業事業体による合同面談会を開催する。

*宮城県林業労働力確保支援センター、**宮城県水産林政部林業振興課、***全国森林組合連合会

B テクノワーカー（林業技能者）コース ～技能の向上やキャリアアップ支援

技能者養成クラス → ひととおり作業ができる現場技能者をめざす

No	研修名等	実施機関・問合せ先	実施予定	定員	概要
1	【緑の雇用】 フォレストワーカー研修	林業労働力確保支援センター（全森連委託）	通年 （集合研修、 OJT研修）	15名 程度	認定事業主（原則5人雇用、知事が雇用管理改善等の計画を認定）が雇用した就業者を「林業作業士（フォレストワーカー）」として育成するもので、3年間の集合研修や各事業体が実施するOJT研修により、安全かつ効率的な作業に必要な知識・技術・技能の習得を図る。 *「緑の雇用」研修は以下の「フォレストリーダー」、「フォレストマネージャー」の研修までステップアップしていく体系で、研修生やOJT指導員等に対する助成措置がある。
2	スタートアップ研修	林業技術総合センター 林災防宮城県支部*	4月9日～11日 4月14日 （4日間）	10名 程度	新卒者など就業前に基礎教育を修了していない新規就業者を対象に林業の基礎知識（造林から木材利用までの林業の全体像、現状と課題対応）、刈払機安全教育・チェーンソー特別教育（林災防の修了証発行）の研修を実施する。
3	森林作業道作設オペレーター育成研修（初級）	宮城北部、宮城南部各流域森林・林業活性化センター（事務局：宮城県森林組合連合会）（県補助）	8月 （4日間）	4名 程度	持続可能な森林経営に必要な丈夫で壊れにくい森林作業道の整備を行うオペレーターを養成するもの（初級・中級・上級別に実施）。初級では基礎土工の習得を図る。（森林経営管理法第36条の事業者、育成経営体対象） 【受講生は以下の条件を全て満たしていること】 ①労働安全衛生法に定める車両系建設機械運転手（機体重量3t以上の整地・運搬・積込用及び掘削用）の有資格者、②同法に定める伐木作業者の有資格者、③本研修期間中も労働災害保険（個人事業主は特別加入労働災害保険）の適用を受けていること、④バックホーの操作技術を要すること（概ね100時間以上の操作時間）、⑤支障木等の伐採作業ができること
4	高性能林業機械作業技術者養成研修	林業技術総合センター 林災防宮城県支部*	基礎研修・現地研修 9月29日・30日 特別教育 ●走行式集材 10月2日・3日 ●伐木等 10月7日・8日 （6日間）	10名 程度	高性能林業機械オペレーターとして就労が予定されている者（現場経験2年程度以上で車両系建設機械（整地・運搬・積込及び掘削又は基礎工事、解体）、又は小型車両系建設機械（同上）の資格を取得していることが要件）を対象に、機構会員の協力の下、高性能林業機械基礎知識、現地研修、以下の機械の特別教育（林災防の修了証発行）を実施する。 ・走行式集材機械（フォワーダ、スキッダ等） ・伐木等機械（ハーベスター、プロセッサ等）

*林業・木材製造業労働災害防止協会宮城県支部

リーダー養成クラス → 作業班長等のグループリーダーを目指す

No	研修名等	実施機関・問合せ先	実施予定	定員	概要
5	【緑の雇用】 フォレストリーダー研修	林業労働力確保支援センター（全森連委託）	8月～10月 (16日間)	10名程度	作業班長候補者等(就業5年以上)を「現場管理責任者(フォレストリーダー)」として育成するもので、担当する現場の効率的な運営を行うために必要な知識・技術・技能の習得を図る。
6	森林作業道作設オペレーター育成研修(中級)	宮城北部、宮城南部各流域森林・林業活性化センター（事務局：宮城県森林組合連合会）（県補助）	10月 (4日間)	4名程度	持続可能な森林経営に必要な丈夫で壊れにくい森林作業道の整備を行うオペレーターを養成するもの（初級・中級・上級別に実施）。中級では丸太構造物の施工技術の習得を図る。 (森林経営管理法第36条の事業者、育成経営体対象) 【受講生の条件はB-3研修参照】
7	森林作業道作設オペレーター育成研修(上級)	宮城北部、宮城南部各流域森林・林業活性化センター（事務局：宮城県森林組合連合会）（県補助）	11月 (4日間)	4名程度	持続可能な森林経営に必要な丈夫で壊れにくい森林作業道の整備を行うオペレーターを養成するもの（初級・中級・上級別に実施）。上級では丸太組土留工、ヘアピンカーブの施工技術の習得を図る。 (森林経営管理法第36条の事業者、育成経営体対象) 【受講生の条件はB-3研修参照】
8	高性能林業機械メンテナンス技術等支援研修	林業労働力確保支援センター（県委託）	2回開催 9月(1日間) 10月(1日間)	各回10名程度	機械の稼働停止による作業時間のロスが生じないように、高性能林業機械の修理技術、修理可否の判断知識等の習得を図る。 (森林経営管理法第36条の事業者、育成経営体対象)

指導者クラス → 後進の指導者、現場管理の統括者を目指す

No	研修名等	実施機関・問合せ先	実施予定	定員	概要
9	【緑の雇用】 フォレストマネージャー研修	林業労働力確保支援センター（研修は全森連実施）	9月 (10日間)	若干名	各現場の統括を行う者(就業10年以上)を「統括現場管理責任者(フォレストマネージャー)」として育成するもので、コミュニケーション力、企画・営業・販売等複数の現場を統括するために必要な知識・技術・技能の習得を図る。
10	伐倒技術指導者養成研修	林業労働力確保支援センター（県委託）	1年目(8日間) 5月～6月 2年目(11日間) 4月～6月 3年目(3日間) 7月 4年目(6日間) 4月	4～5名程度	伐倒基礎技術を再点検し理論的かつ安全なチェーンソーの伐倒技術を説明できる指導者を育成するもの。 1年目はcheck&clinic研修(基礎技術の点検)、2年目はコーチング研修を行い、伐倒技術指導者に認定される。認定者に対してはフォローアップとして3年目に指導マニュアル作成研修を実施する。4年目で研修講師を務められる人材に育成。 (森林経営管理法第36条の事業者、育成経営体対象)
11	森林作業道作設オペレーター指導者研修	林業技術総合センター	①路線選定・線形検討 8月(2日間) ②開設後検討 10月(1日間)	10名程度	GNSSやデジタル情報を活用しながら施業団地における作業道開設線形の検討、現地踏査、路線選定、開設、開設後の事後評価までの実践的な研修を行い、施業を効率化し生産基盤として維持しやすい作業道の作設を指導できる人材を育成する。 (上記No7研修修了者、又は作業道作設経験15年程度以上の方、現場の事業管理に携わる方が対象)
12	高性能林業機械実技指導者養成研修	林業技術総合センター	7月、9月 (4日間)	2名	高性能林業機械作業技術者養成研修の指導者を養成するため、林災防の「安全衛生教育に係る講師養成研修」(2日間)に派遣するとともに、機械化の理論や指導方法に関する知識・技術の習得を図る(2日間程度)。 (オペレーター経験10年程度以上で上記No4研修で実技指導を行う方が対象)

入門クラス → 林業に携わる上で必要な知識・技術を身につける					
No	研修名等	実施機関・問合せ先	実施予定	定員	概要
1	林業教室	林業技術総合センター 各地方振興事務所	5月～9月 (6日間程度)	10名	林業後継者や事業体の新規就業者等を対象に林業に関する総合的な知識・技術(林業基礎、きのこ、林業機械基礎、チェーンソー、木材流通、リスクマネジメント等)の習得を図る。6日間程度のうち必修2日、選択研修1日以上、希望により事務所実地研修を履修。
2	森林経営管理技術者養成研修	林業技術総合センター	1年目(22日間) 5月20日～ 12月19日 2年目(21日間) 6月3日～ 12月10日	5名程度	森林の整備や保全、森林の経営管理を志望する若者や事業体の若手職員を対象に、機構会員との連携・協力の下に森林の経営管理技術者として必要となる以下の知識や技術の習得を図る(2年制)。 ・森林経営管理の基礎、森林づくりの目標と森林施業、森林の利用、林業労働力安全衛生対策、森林の経営管理を支える制度、課題検討・コミュニケーション。 ・技術者としての実践力が身につけられるよう実習や現地研修を重視する(未就業者にはインターンシップを追加)。 ・研修生や所属事業体等と打合せ、研修計画を調整する(繁忙期の調整、必要な事項の補講等)。 ・研修生や所属事業体等と連携し、森林経営管理技術者の確保・育成のモデルとして醸成する。研修修了者を登録し、事後の情報提供や希望する補講の受講などのフォローアップを行う。
3	事業管理者基礎研修	林業技術総合センター	4月25日 5月9日 (2日間)	5名程度	事業体の総務や事業管理の担当者を対象に総務の実務や働きやすい環境づくり、新規就業者の確保・育成等に関する研修を参加者が希望する検討課題を取り込みながら実施し、職場の課題解決の一助とする。
4	スマート林業・森林調査講座【初級】	林業技術総合センター	(各2日間) ①ドローン 6月5日・24日 ②GNSS 7月16日・17日 ③地上レーザ 9月11日・12日	各5名程度	①ドローン、②GNSS、③地上レーザの各機器の活用に向けた研修を初級・実践・事業活用の3段階に分けて実施する。(①～③は選択制、各2日、複数選択可) 初級講座では、各機器の基礎知識と基本操作方法の習得を図る。
5	スマート林業・DX推進講座【体験】	林業技術総合センター	7月15日 8月20日 9月3日 (3日間)	5名程度	生産から販売まで林業・木材産業のデジタルトランスフォーメーションを担う人材育成に向けた研修を体験・実践・事業活用の3段階に分けて実施する。 体験講座では、丸太から製材までの流通・加工のデータ共有のデモシステムを体験する。
6 ※	★林業デジタルリテラシー向上研修 ※各クラス共通研修	林業技術総合センター	6月9日・10日 8月5日 9月17日 10月28日 (5日間)	10名程度	デジタルデータを活用した森林データベースと各種地図データの作成、デジタル技術を活用した森林・林業分野の効果的な情報発信、最新技術による森林生態系を含む総合的な調査技術について基礎的な知識と業務への活用について習得する。 (本研修の各講座を選択して受講できる)
7	森林施業プランナー養成研修	林業技術総合センター	5月22日・23日 (2日間)	5名程度	業務経験が2年以上で関連業務に携わる方を対象に森林施業プランナーの認定取得を支援する。

事業管理者クラス → 事業のマネジメント、地域の森林管理を担う人材を目指す

No	研修名等	実施機関・問合せ先	実施予定	定員	概要
8	地域林政アドバイザー研修	宮城県水産林政部 林業振興課	7月～9月 (4日間)	15名 程度	市町村、森林組合、宮城県育成経営体、認定事業主の職員又はOB等を対象にした森林経営管理制度等市町村の森林・林業行政を支援するアドバイザー(国制度)の資格要件を取得するための研修を実施する。
9 ※	林業労働災害対策意識向上研修 ※経営者クラスと共通研修	林業労働力確保支援センター(県委託)	12月 (2日間)	30名 程度	「意欲と能力のある林業経営体」等の経営者・実務責任者層や指導機関の職員を対象にした労働安全意識の醸成や事業体の意識改革に取り組むための研修を実施する。
10	事業マネジメント力強化研修	林業労働力確保支援センター(県委託)	7月～12月 (5日間程度)	10名 程度	森林経営管理制度を担う「意欲と能力のある林業経営者」の後継者となり得る人材を対象に、経営における会計、労務・雇用管理の重要性を理解し、その実践を行うとともに、管理意識の定着を図る研修を実施する。
11	スマート林業・森林調査講座【実践】	林業技術総合センター	(各2日間) ①ドローン 6月18日、8月7日 ②GNSS 9月2日、10月1日 ③地上レーザ 11月6日・7日	各 5名 程度	①ドローン、②GNSS、③地上レーザの各機器の活用に向けた研修を初級・実践・事業活用の3段階に分けて実施する。(①～③は選択制、複数選択可) 実践講座では、現場での運用を想定した各機器やサービス、取得データの活用方法の習得を図る。
12 ※	スマート林業・森林調査講座【事業活用】 ※経営者クラスと共通研修	林業技術総合センター	(各1日間) ①ドローン 11月13日 ②GNSS 10月21日 ③地上レーザ 12月16日	各 5名 程度	①ドローン、②GNSS、③地上レーザの各機器の活用に向けた研修を初級・実践・事業活用の3段階に分けて実施する。(①～③は選択制、複数選択可) 事業活用講座では、実際に機器を活用している事業体等から活用方法を習得する。
13	スマート林業・DX推進講座【実践】	林業技術総合センター	10月9日 11月5日 12月9日 (3日間)	5名 程度	生産から販売まで林業・木材産業のデジタルトランスフォーメーションを担う人材育成に向けた研修を体験・実践・事業活用の3段階に分けて実施する。 実践講座では、生産から加工までをつなぐデジタル化によるトレーサビリティの意義と課題について習得を図る。
6 ※	★ 林業デジタルリテラシー向上研修 ※各クラス共通研修	林業技術総合センター	6月9日・10日 8月5日 9月17日 10月28日 (5日間)	10名 程度	デジタルデータを活用した森林データベースと各種地図データの作成、デジタル技術を活用した森林・林業分野の効果的な情報発信、最新技術による森林生態系を含む総合的な調査技術について基礎的な知識と業務への活用について習得する。 (本研修の各講座を選択して受講できる)

経営者クラス → 経営ビジョンの作成やDXの取組を推進

No	研修名等	実施機関・問合せ先	実施予定	定員	概要
14	森林施業・経営研究セミナー	林業技術総合センター	11月11日・12日 (2日間)	10名 程度	宮城県指導林家等林業経営者が育成してきた森林を視察しながら、森林施業や林業経営について学ぶとともに、参加者で今後の課題について意見を交換する。
9 ※	林業労働災害対策意識向上研修 ※事業管理者クラスと共通研修	林業労働力確保支援センター(県委託)	12月 (2日間)	30名 程度	「意欲と能力のある林業経営体」等の経営者・実務責任者層や指導機関の職員を対象にした労働安全意識の醸成や事業体の意識改革に取り組むための研修を実施する。
15	経営マネジメント力強化研修	林業労働力確保支援センター(県委託)	9月～12月 (4日間)	10名 程度	森林経営管理制度を担う「意欲と能力のある林業経営体」の経営者を対象に、林業経営に必要な経理・財務把握の重要性を理解し、経営ビジョンの構築と組織改善(アクションプラン)を学ぶ研修を実施する。

(裏面に続く)

(経営者クラス続き)

No	研修名等	実施機関・問合せ先	実施予定	定員	概要
12 ※	スマート林業・森林調査講座【事業活用】 ※事業管理者クラスと共通研修	林業技術総合センター	(各1日間) ①ドローン 11月13日 ②GNSS 10月21日 ③地上レーザ 12月16日	各5名程度	①ドローン、②GNSS、③地上レーザの各機器の活用に向けた研修を初級・実践・事業活用の3段階に分けて実施する。(①～③は選択制、複数選択可) 事業活用講座では、実際に機器を活用している事業者等から活用方法を習得する。
16	スマート林業・DX推進講座【事業活用】	林業技術総合センター	7月29日 9月30日 12月8日 (3日間)	5名程度	生産から販売まで林業・木材産業のデジタルトランスフォーメーションを担う人材育成に向けた研修を体験・実践・事業活用の3段階に分けて実施する。 事業活用講座では、流通工程のデジタルデータ共有システムを習得し、実用化に向け具体的な検討を行う。
6 ※	★林業デジタルリテラシー向上研修 ※各クラス共通研修	林業技術総合センター	6月9日・10日 8月5日 9月17日 10月28日 (5日間)	10名程度	デジタルデータを活用した森林データベースと各種地図データの作成、デジタル技術を活用した森林・林業分野の効果的な情報発信、最新技術による森林生態系を含む総合的な調査技術について基礎的な知識と業務への活用について習得する。 (本研修の各講座を選択して受講できる)

D 森林ビジネスコース ～起業や事業拡大に役立てられる知識・技術の習得を支援

No	研修名等	実施主体・問合せ先	実施予定	定員	概要
1	広葉樹ビジネス講座	林業技術総合センター	5月26日～12月5日 (10日間) 実践講座 4月23日～10月24日 (5日間)	10名程度	広葉樹林の循環利用をテーマに森林施業から加工・販売までの事業実践を想定した講座を実施する。研修修了者(希望者)のフォローアップとしてビジネス実践講座を実施。 ※令和6年度1年目受講生は2年目研修実施。 (6日間、6月6日～1月24日) ※令和7年度から1年間の講座と実践講座に再編。
2	育林ビジネス講座	林業技術総合センター	5月21日～11月19日 (10日間)	10名程度	再造林率の向上や荒廃森林の整備が最重要課題であるとの認識の下に造林・保育を専門にした起業や造林・保育事業の拡大を目指す担い手の育成に向けた講座を実施する。

オープンカレッジ ～カレッジ・機構の情報発信、交流の場づくり

カレッジや機構の取組への参加を促進するため、カレッジの人材育成プログラムや機構の「就業環境向上を進めるプロジェクト」に関する情報を発信するとともに、現場の課題をテーマに森林・林業関係者が交流し意見を交換する場とする。また、学生や一般の方々が機構やカレッジ、森林・林業に関心を高める機会とする。
内容：プロジェクトシンポジウム(基調講演、取組事例や新技術に関する情報交換)、研修生成果発表、会員や研修生の企画提案型行事(木育等のワークショップ、研修で検討したビジネスプランの試行)など
開催時期：10月ほか

各種情報の確認

カレッジの研修や機構の取組はホームページで確認してください。

[みやぎ森林・林業未来創造カレッジ \(miyagi-morimirai.jp\)](https://www.miyagi-morimirai.jp)

<お問い合わせ・相談先>

- 宮城県林業技術総合センター普及・研修部 (みやぎ森林・林業未来創造機構・みやぎ森林・林業未来創造カレッジ事務局)
(電話)022-345-2887 (FAX)022-345-5377 (メール)morimirai@pref.miyagi.lg.jp
(ホームページ) <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/stsc/index.html> (宮城県庁ホームページ内)
- 宮城県水産林政部林業振興課林業基盤整備班
(電話)022-211-2913 (FAX)022-211-2919 (メール)rinsin@pref.miyagi.lg.jp
(ホームページ) <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ringyo-sk/> (宮城県庁ホームページ内)
- 公益財団法人 みやぎ林業活性化基金 宮城県林業労働力確保支援センター
(電話)022-217-4307 (FAX)022-226-8767 (メール)fm-kikin@miyarin.or.jp
(ホームページ) <https://www.miyarin.or.jp/>
- 林業・木材製造業労働災害防止協会宮城県支部(略称「林防災」)
(電話)022-233-8007 (FAX)022-233-8007 (メール)rinsai-miyagi@m7.dion.ne.jp